香取遺産

vol.132

指定史跡 楫取魚彦墓

①楫取魚彦の墓　②楫取魚彦旧宅跡　③楫取魚彦の歌碑

楫取魚彦の墓
「江戸後期の国学者・歌人」

牧野にある観福寺の墓地には、伊能忠敬や伊能穎則の墓と共に、楫取魚彦の墓があります。

楫取魚彦は、享保8年(1723)3月2日、佐原新橋本に生まれました。本姓は伊能。江戸に出て後、生地の香取郡にちなんで楫取と名乗りました。通称を茂左衛門といい幼名松之助、のちに景良から魚彦と改めています。

6歳の時に父景栄を亡くし、母に養育されていましたが、幼少から利発で読書と執筆を好んだといわれています。

俳諧と絵画を建部綾足に学び、絵画では特に鯉と梅の図を好んで描いたことから「鯉の魚彦」といわれていました。

明和2年(1765)、42歳の時、江戸に出て国学者の賀茂真淵に国学と和歌を学びました。特に万葉集を尊び、古典の研究から歴史的な正しい仮名づかいに関する研究「古言梯」を刊行しています。

また、加藤美樹、加藤千蔭、村田春海とともに「県門の四天王」といわれ、門流を代表する歌人でした。

魚彦の歌は、師真淵が主張した万葉調を実践したもので、師以上に万葉風であると評価されています。真淵亡き後、魚彦のもとには200人を数える門人が集まったといわれています。

佐原区の八坂神社境内には、「入日さす豊旗雲は　わがこふる　よしのの山や　越て来つらむ」の歌碑があります。この歌は、明和6年(1769)、47歳の時、夫人稚木と大和へ旅した折のもので、壮麗な自然を生き生きと詠んでいます。

魚彦は、天明2年(1782)3月23日、60歳で亡くなりました。墓は昭和45年5月27日に市文化財に指定されています。

問 生涯学習課 ☎(50)1224